

様式 1

完了報告書（平成 25 年度）

提出者                     翟 亜蕾                    

提出年月日                     2014年3月31日                    

**【プロジェクト名】**

和文

ミャンマー辺境農村における貧困問題と麻薬代替作物の栽培  
——コーカン地域における現地調査に基づいて——

英文

Rural Poverty and Opium Substitution in Myanmar : An analysis of effects of opium substitution programme in Kokang area

**【メンバー構成】**

研究代表者 翟 亜蕾

幹事

メンバー 今泉 晶

**【研究のねらいと目的】** (600 字程度)

本研究の目的は、ミャンマー辺境農村における貧困の実態について、違法作物の撲滅運動との関連を含め、その歴史的意義と農村コミュニティ・農家への社会的、政治的、経済的影響を考察することにある。

違法作物の栽培を中止させ、合法作物の栽培を推進する事業は、当然ながら政治、経済、組織といったさまざまな要因が絡み合い、極めてセンシティブで複雑な性格を有している。そのため、代替栽培に関する研究の多くは、欧米の学者により行われ、内容的にも政治キャンペーンとの枠組みでの検討だといわざるを得ない。そうした中で、ミャンマーの農村貧困問題が多く既存研究で取り上げられたものの、政治的要因により、その大半は中央政府がある程度有効的に支配する地域を対象としてきた。農村開発により貧困撲滅が最も期待されている違法作物栽培地域をめぐる研究はいまだ進展が見られない。

そうした中、本研究は、かつて違法作物栽培地域であった辺境農村の現地調査を実施することにより、貧困と代替栽培との関係性およびそのメカニズムについて実証分析を通して明らかにしたい。また、これまでさまざまな制限により取り上げられてこなかったミャンマーの辺境地域を学術研究の射程に入れることにより、既存研究の空白を埋める意義を持っているのみならず、実証分析の結果が必ず貧困削減政策に豊富なインプリケーションを提供するものを主な目的としている。

**【活動の記録】**

準備作業：(2013年11月～2013年12月中旬)

現地調査実施作業：(2013年12月24日～2014年1月1日)

調査者：翟 亜蕾 (本プロジェクト代表者)

協力者：李 博 (NGO 法人 HPA コーカン地域マネージャ)

ボン ジャン (NGO 法人 HPA 職員)

リ ティン ユイ (NGO 法人 HPA 職員)

調査地：ミャンマー・シャン州コーカン自治区ラオカイ地域

調査手法：調査票に基づくヒヤリング調査

調査内容：農家基本データ（人口、年齢、性別、教育状況、職業等）、家計経営（収支状況）、資産保有状況、農家経営データ

調査目的：ミャンマーにおける農村貧困の生成メカニズムについて経済的、社会的および政治的諸側面から明らかにしたうえで、さらに違法作物撲滅前後における貧困農家の対応並びに農家経営の実態を明確にする。それを通じて、貧困と代替栽培との関係性およびそのメカニズムについて実証分析を通して明らかにしたい。

調査過程：①現地協力研究者および現地 NGO 職員の協力を得た上で家計調査の実施

②農家インタビュー

③調査票を含む調査結果の回収と確認

データ入力・分析実施作業：(2014年1月～2014年3月)

### 【成果の概要】(800字程度)

本研究は、現地調査に基づき、農家基本データ（人口、年齢、性別、教育状況、職業等）、家計経営（収支状況）、資産保有状況、農家経営データを具体的に考察した。それによって、ミャンマーにおける農村貧困の生成メカニズムについて経済的、社会的および政治的諸側面から明らかにした。さらに違法作物撲滅前後における貧困農家の対応並びに農家経営の実態を明確にした。

具体的には、ミャンマー国境地帯のコーカン地域で麻薬代替作物の中から二種類（クルミ、サトウキビ）を選び、それぞれ導入された経緯と、伝統的作物の代替栽培と新たな生産方式とされる契約農業に焦点を当て、さらに現地農家によるサトウキビ契約栽培の実態及びその農家経済への影響について考察してきた。それを通じて、貧困と代替栽培との関係性およびそのメカニズムについて実証分析を通して明らかにしたい。

論文の枠組みについて、まず代替作物の導入背景を紹介しながら、それぞれの推進アプローチの経緯を分析する。それから二種類の代替作物の収益性を比較しながら、農家世帯の農業経営による所得増加および余剰労働力へのインパクトを検討する。最後に契約農業方式が就業構造、所得構造と資産所有への影響を考察した上で、代替作物の導入による農村社会経済効果の究明に努める。

その結果、本研究では、ミャンマー・コーカン地域における農業生産の概要、麻薬キシ代替作物が投入された経緯と発生条件について検討を行うことにより、麻薬撲滅運動とそれとともに発生してくる貧困状態の悪化、そしてそれに対する農家の対応を明らかにする。その上で、政府の政策立案、制度形成におけるコミュニティやミャンマー政府の関わり方といった側面に照射しつつ、ミャンマー辺境農村の貧困削減に貢献するような政策提言を行っていくことが考えられている。

### 【研究業績】

- 1、 Zhai Yalei (2013) “Cross-border Contracting Farming between China and Myanmar”、ハイデルベルク大学で開催した研究報告会での発表、2013年3月20日、於：ドイツ・ハイデルベルク大学。
- 2、 翟亜蕾 (2013) 「ミャンマー・中国国境地帯のサトウキビ契約栽培—麻薬代替作物導入の実態と貧困削減効果—」、京都大学大学院経済学研究科修士論文、2013年7月提出・審査。
- 3、 Zhai Yalei (2013) “Golden Triangle Today: The State of China’s Opium Substitution Programme and Contract Sugarcane Farming”、タマサート大学・京都大学学生ワークショップでの研究発表、2013年8月16日、

於：タイ・タマサート大学。

- 4、 Zhai Yalei (2013) “Cross-border Contract Sugarcane Farming and Poverty Reduction”、ガジヤマダ大学・京都大学学生ワークショップでの研究発表、2013年9月23日、於：インドネシア・ガジヤマダ大学。
- 5、 翟亜蕾 (2014) 「ミャンマーの麻薬代替作物導入と農家経済—中国国境・コーカン地域におけるサトウキビ契約栽培の事例—」、2014年度日本農業経済学会全国大会 個別口頭報告、2014年3月30日、於：神戸大学。

**【通信欄】**